



事業報告ビデオ



会場全景



平出会長あいさつ



打合せ

今、できることを進めていこう

～令和4年度 総会開催～

5月16日(月)みしまプラザホテルにおいて、令和4年度三島市国際交流協会総会が開催されました。はじめに平出利之会長より「世の中の動きからは少しずつ回復の兆しを感じるが、まだ予断を許さない状況である。今、できることを少しずつ進めていこうと考えているので、協力をお願いします」とあいさつがあり、その後、矢岸克行副会長の進行で前年度報告、今年度計画等の議事が滞りなく可決されました。前年度事業はビデオを使ってわかりやすく報告され、総務委員会・事務局の熱意を感じました。

戦争の影響で、ウクライナから三島へ避難している方もいらっしゃるとのこと。MIRAとして支援に取り組んでいく方向性も確認され、今回の戦争が、対岸の火事ではないことを実感する場面もありました。

令和4年度事業計画(一部)

- 麗水市友好提携25周年パネル展示
- 日本語の教え方講座
- 夏期語学講座
(韓国語・スペイン語・中国語)
- 十二単着装実演ショー
- 英語スピーチコンテスト
- 中国語スピーチコンテスト
- フラワーアレンジメント講座
- オータムフェア
- 新春交流事業
- 在住外国人への多言語情報提供
- 外国人小中学生日本語支援

第18回

フラワーアレンジメント講座開催

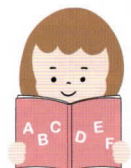
2022年3月26日(土)生涯学習センター



国際交流協会人気のフラワーアレンジメント講座が生涯学習センターにて開催されました。参加者は中国、バングラデシュ、ルーマニア、アメリカ、日本の皆さん。当日は春休み中でもあり、子供たちも参加して賑やかな開催となりました。講師は国際交流協会の望月さん、山本さんです。今回のアレンジメントはリング状の花器に春の花を活けていきます。出来上がりは花かんむりのように可愛らしく、華やかな作品に仕上がりました。

3月8日は世界女性デーです。作品作りの前に世界女性デーについてのお話がありました。2022年現在、世界で祝日になっている国は26か国、日本では残念ながら祝日にはなっていません。今回使用した花のひとつ、ミモザはイタリアでは男性から女性に送る風習があります。(男女問わず、感謝を伝えたい人へも送るそうです)。カナダでは母の日に花を送るのだそうです。参加国の方々にも世界女性デーに因んだ話を聞いてみました。ルーマニアでは母の日にもなっていて、3月中は胸に花やブローチを付けるそうです。バングラデシュでは紫色の物を着たり、身に着けたりします。

当日、講師の山本さんからミモザのドライフラワーが参加者へプレゼントされました。会場は春の花の色と香りで満たされました。



市立小中学校に図書を寄贈 ～今年で18回目～



毎年恒例となっている図書の寄贈のため、平出会長ほか役員が、4月26日、三島市教育委員会を訪れ、西島教育長、鈴木教育推進部長、中村学校教育課長に市立小中学校21校分の本を手渡しました。

今年度の寄贈は「今がわかる時代がわかる世界地図2022」(成美堂出版)というもので、世界地図ばかりでなく、世界の政治経済の情勢、国際ニュース、また、新型コロナウイルス感染症はもとより、食品ロス、プラスチックごみ、温暖化、飢餓や貧困など、地球規模で起きている様々な問題をわかりやすく解説しています。子供たちが楽しみながら勉強して、広く世界のことに興味を持ってくれるようになればうれしく思います。



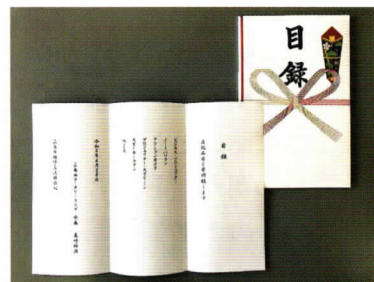
三島西ロータリークラブから オンライン交流機材を寄贈いただきました

協会の事業においていつも協賛・参加され、積極的に協力してくださっている三島西ロータリークラブより、このたび、オンライン交流機材の寄贈をいただくこととなり、4月28日(木)同クラブの例会の席上で贈呈式がおこなわれました。

協会では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、姉妹都市、友好都市との直接交流を中断せざるを得ない状況となって、何とかオンライン形式での交流を図る努力をしていますが、そのための機材・設備に制約があり、

満足のいくような交流を推進できていません。このような中、ウイ

ズ／アフターコロナにおいても今後増大するであろうオンライン交流を円滑に実施できるようにと、必要機材をご寄贈いただくこととなったものです。寄贈品は、ノートパソコン、ビジネスプロジェクター、プロジェクタースクリーン、スピーカーフォン、デジタルビデオカメラレコーダー、アクションカメラ等10品目にのぼります。贈呈式では、三島西ロータリークラブの森崎祐治会長より、協会の平出会長に目録が手渡されました。

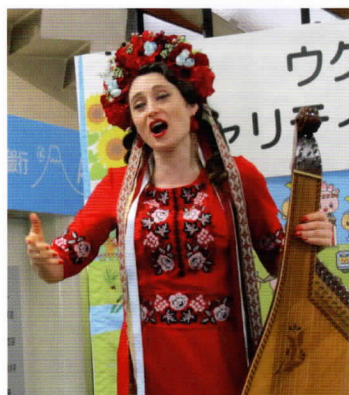


寄贈品の目録



森崎会長(右)とMIRA 平出会長

ウクライナ支援 オクサーナ・ステパニユックさん チャリティーミニコンサート開催



ウクライナ・キーウ州出身で世界的ソプラノ歌手・バンドウラ奏者のオクサーナ・ステパニユックさんによる、ウクライナ支援チャリティーミニコンサートが、5月10日(火)12:30より、三島市役所本館玄関ロビーにて開催されました。

最初にウクライナ国歌の斉唱があり、胸に手を当てて歌うステパニユックさんからは、母国ウクライナへの熱い思いと平和への願い、そして日本に対する感謝の気持ちがひしひしと伝わってきました。その後、「アベマリア」や「見上げてごらん夜の星を」などを美しい歌声で披露しました。

ステパニユックさんは、ウクライナ国立チャイコフスキー音楽院の声乐科・器楽科を首席で卒業、オペラ歌手として、またウクライナの民俗楽器バンドウラ奏者として世界各地で活躍

しています。2003年に初来日、2008年には東京・国分寺市に移り住み、三島にも毎年のように来訪してコンサートを開催しています。チャリティー活動にも精力的で、東日本大震災被災地の支援活動はもちろん、シリアやカンボジアなどでもチャリティーコンサートを行っています。

コンサートの最後に、流暢な日本語で「音楽の力で、祖国に、世界に愛と希望を届けたい。日本の皆さんの支援に、心から感謝します」と、来場者にお礼を述べました。



James Molloy - MIRA Newsletter #31

JIMのみしまものがたり③1

初夏の夜のともしび

1989年頃私は、米国（メイン州）との国境に近いカナダのニューブランズウィック州にいました。少し空気が重たく感じる、蒸し暑い夜。開けた窓からは遠くの声がまるですぐそこで話しているかのように聞こえます。

部屋の明かりを消すと、暗がりの中から興奮したようすのささやき声が聞こえます。最初は何を話しているのか聞き取れませんでした。窓に近づいてみるとその興奮の理由がはっきりわかりました。

「ホタルだ！」

その当時、私にとってホタルはおとぎ話や漫画にしか出てこないレプラコーン（アイルランドの妖精）やユニコーンと同じような、ほぼ空想上の生物という感覚でした。故郷のニューファンドランド州では、ホタルの放つ魔法のような夜の光は、子どもたちの想像上の存在だったからです。

しかしこのとき、自分から少し離れたところで1秒か2秒ちかちかとしたものが見え、そしてずっと消えたのでした。

その経験から10年後。ある湿気の高い夕方、私は初めて三島でホタルと対面しました。

ニューブランズウィック州でのあの夜と同じように、それはホタルを驚かさないうようにしながら「ねえ！見て！」と興奮しているようすのささやきから始まりました。

当時はまだ日本語がよくわかりませんでしたが、人々の感情は驚くほど世界共通です。やはりそこでもホタルが浮遊していました。



乱舞するホタル（写真提供：三島ホタルの会）

三島での初対面から四半世紀近くたった今でも、私は毎年源兵衛川沿いで人々がささやく声を聞くのを楽しみにし、ホタルの放つうっとりするような光に魅了されているのです。

川のほとりに立つ木々の間から放たれる優しい光を追いながら、この紙クリップ大の発光生物は、人間たちにこの美しい瞬間を共有させ、共感することの重要性を認識させる役割を果たしていることに自覚はあるのだろうかと思えます。そして、もしかしたら、それこそがホタルの存在意義なのかもしれないという思いに至るのでした。

麦畑（編集後記）

- ★The fireflies are singing their silent song. (J)
- ★今夏は大社の祭りも再開とか。やっと光が見えてきた(桜)
- ★誰もが戦争の無い世界を願っているのに、
戦いが無くならないもどかしさ。何故だろう(明)
- ★今年の夏も暑いらしい。なのに物価と電気代アップで懷は氷河期・・・！(S)
- ★ノーマン・ミネタさん、優しい方でした。(青)

申込み・問合せ

- ★三島市国際交流協会（MIRA）事務局
TEL 976-1020 FAX 976-1021
- ★三島市国際交流室
TEL 983-2645
三島市中央町5-5三島市役所中央町別館



▲ホームページ